

吉川の代表にふさわしく、全力でがんばります



吉川町議会議員

はしづめのりかず

日本共産党

橋爪法一

「ふるさとのために役に立ちたい」…この思いでふるさとに戻り、二十六年間、「町民のいちと暮らし最優先」の町政をめざして努力してきました。

合併で新市ができることになったいま、これまで以上にふるさと吉川のために、新市全体のためにがんばります。

“みんなの幸せ求めて
いつも一生懸命”

橋爪さんの好きな言葉は“幸せ”ですよね。少年時代の思い出などをつづった本の題名は『幸せめつけた』、ホームページのタイトルも『小さな町の幸せ通信』。そこには、“みんなの幸せ求めて”いつも一生懸命に生きる橋爪さんの姿勢があらわれていると思います。これから吉川代表としてがんばってください。（三〇代後援会員）

【略歴】1950年（昭和25年）尾神生まれ / 新潟大学人文学部卒業後、1978年（昭和53年）吉川町議会議員当選、7期26年 / この間、総務文教常任委員長、まちづくり基本条例特別委員長などを歴任 / 現在、町農業委員会会長職務代理、上越地域合併協議会委員 / 家族は父母、妻、1女2男 / 著書に『幸せめつけた』 / 現住所は吉川町大字代石。



2004年11月号外

日本共産党吉川支部は、はしづめのりかズの略歴と活動を発表しました。 548-3628 有線4867 Eメールhasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

吉川中学校で生徒に語りかける橋爪町議

「佳良方」「地域方」を重視して市政に新風をおくります

日本共産党・橋爪法一の重点公約

何よりも豪雨、地震など災害対策に全力をそそぎます。

吉川高校の「酒づくり」の伝統を生かした取り組みなど、吉川地域事業をみんなの力で推進します。乳幼児医療費助成制度の拡充と老人福祉の充実。吉川町まちづくり基本条例の精神を引き継ぐとともに、吉川地域協議会との連携を大切にします。これまでどおり議会報告を続けます。また、ホームページでの速報体制を強化します。

住民アンケートをもとに公約や政策を充実させていきます。



少年時代の夢追いかけて

私の少年時代の夢の一つは、どんな大雪になっても、どんな吹雪になっても、安心して歩ける道をつくることでした。そのためには道路を、分厚い、透明なプラスチックのトンネル型のものでつくればいいな、と考えていました。

当時、空想漫画がはやっていたので、そうした漫画の影響を受けたのだと思います。でも、父が出稼ぎしているなか、雪と格闘する祖父や母の姿を見ていた私にとって、ごく自然な願いだったのです。いま、道路のほとんどは機械除雪や消雪パイプなどによって無雪化されています。ですから、「冬でも安心して歩ける道」の願いは、形こそ違いますが、実現しつつあります。

「死なない薬」を発明することも夢の一つでした。これは大好きだった祖父・音治郎に長生きしてもらいたいという切なる願いから出た夢です。人間は誰でも、子ども時代を経験し、大人になり、仕事をして年を重ねていきます。そして最後は、ゆったりと自分のやりたいことをやって死を迎えたい。そう願っている人はたくさんいるはずですが、しかし祖父は、働いて働いて旅立っていきました。あれから40年という長い年月がたったというのに、安心して老後を送れる時代はなかなかやってきません。

私の少年時代の夢は、このほかにも「石炭の鉱山を発見する」などたくさんありました。突拍子もない夢が多く、簡単には実現できないものばかりでしたが、いずれも、家族や地域みんなが幸せに暮らせる時代をつくることにつながっています。ですから、いまでも当時の夢を大切にしながら生きています。

友人の中には、「おまんは共産党の看板をはずした方が得になる」という人もいます。でも私は、共に幸せを産み出す党の一員だったからこそ、利権や誘惑に負けずに活動が続けることができました。少年時代の夢を追いかけて、これからもがんばります。（橋爪法一）

